オンラインで、スタートラインに。

期間限定で町のホームページに映画『スタートライン』が配信されます。共生社会を考えるヒントになるこの映画を観て、優しい社会への一歩を踏み出してみませんか。

三芳町では、誰もが幸福に生きていける共生社会の実現をめざして、あいサポート運動に取り組んでいます。

あいサポート運動のスタートは「まず知ること」。多様な障がいの特性や障がいのある人への配慮を知ることから始め、考えて、実践する。その第一歩を今年の夏、映画を観て踏み出すことができます。

映画『スタートライン』

8／17(月)～26(水)に町のホームページで映画『スタートライン』が無料公開されます。

この映画は、耳がきこえない映画監督、今村彩子さんが自転車で日本を縦断する自身の姿を描いたドキュメンタリー。昨年末、中央公民館で上映され、盛況を収めました。

コロナ禍の今、コミュニケーションを題材としたこの映画を「オンライン」で配信し、町がめざす共生社会を考える機会にしてもらいたい。この映画配信には、そんな想いが乗せられています。

伴走者の堀田さんとゴール地の北海道宗谷岬にて。日本を縦断する自転車の旅は終わりましたが…。

コミュニケーションの壁

映画には、自転車の旅に慣れない今村さんをサポートする伴走者が出てきます。今村さんが「厳しい師匠」と慕う自転車屋の堀田哲生さんです。

沖縄から始まった旅で、耳がきこえる人とのコミュニケーションの壁に悩む今村さんを堀田さんは愛のある言葉で叱ります。

ピープル インサイド オナジ

2人が旅の終盤で出会ったのは、オーストラリア人のウィルという青年。「彼との偶然の出会いは人生においても特別」と今村さんはしみじみと語ります。

ウィルさんもまた聴覚に障がいがあり、日本語もそれほど話せない中、出会う人に積極的に話しかけます。その姿勢に「なぜそんなにきこえる人と話せるの?」と聞く今村さん。ウィルさんの答えは「ピープル インサイド オナジ」でした。障がいの有無、言語や文化の違いがあっても人間の中身はみな同じ。今村さんが「コミュニケーションの壁は耳がきこえないせいではない」と気づいた瞬間です。

個性を理解し、尊重し合うことが共生社会をめざすうえで重要だということをこの映画は教えてくれます。

何かを始めるきっかけに

観ることで、あいサポート運動の理念である「知って、考える」ことができる『スタートライン』。今村さんは、「この映画を通して自身のコミュニケーションについて考えたり、何かを始めるきっかけになったら嬉しいです」と自身が一歩を踏み出した旅を思い出しながら語ります。

オンラインを考える

また、「障害のある方や寝たきりの方でも好きな時間に、映画を観れるのが魅力です」と、「オンライン」がバリアフリーになることを強調する今村さん。

無観客コンサート、映画、それぞれに新たな可能性が開ける「オンライン」。三芳町から始まった配信を全世界にまで発信できるのも強みの一つです。

この夏、三芳町から発信される「オンライン」を、涼しく、感染リスクのない自宅で、世界に先駆けて楽しむ——。そんな、「オンラインの、夏」を過ごしてみてはいかがでしょうか。■

——特集・終——

今村さんと日本縦断した愛車のジャーニーさん（Great Journey: 素晴らしき旅）と北海道にて。3,824km を共に走りました。

映画の内容

生まれつき耳のきこえない映画監督が、自転車で沖縄→北海道日本縦断の旅へ。コミュニケーションの壁にヘコみ、涙しながらも走り続ける 57 日間の記録。伴走カメラマン哲さんの叱咤激励、聴力を失った旅人ウィルとの出会い…ニッポン中のためらう人に観てほしい、一篇の勇気のおすすめ。

（Start Line HP より）

映画監督
FILM DIRECTOR
今村 彩子さん

小学時代に字幕付きの映画を見て映画制作を志す。大学在籍中に渡米して映画制作を学び、現在は大学で講師をしながら、映像制作を行う。編集作業から機械に強いと思われがちだが、メカ音痴という一面も…。好きなものは芋焼酎と芋けんぴ。

①宿泊した民宿の家族との記念写真。旅の中では300人以上の人と出会いました。

②・③旅の終盤、北海道の石狩で出会ったウィルさんとの写真。6日間、ゴールの宗谷岬まで、3人で旅を共にしました。

④「日本縦断中」の旗を掲げ走る今村さん。自転車の荷物は18キロにもなります。

自転車日本縦断ロードムービー スタートライン
Start Line
が自宅で観れる。

Start Line 三芳町

公開期間 8/17(月)～26(水)

期間中に町ホームページもしくはQRコードからご覧ください。

YouTube